



札幌の魅力を たくみ 育む匠たち

魅力的な都市として輝きを放つ札幌。そこには、市民や観光で訪れる方のために力を尽くす人々の姿があります。このページでは、札幌の魅力を陰ながら支える“匠”の思いに迫ります。

第4回

もいわ山ロープウェイの整備に携わる



にしむら まさゆき
西村 政幸さん

平成10年から整備・点検を行う。40歳。

まちと自然をつなぐ「ロープウェイ」を 安全に運行させることが私の使命

年間60万人以上が訪れる藻岩山。昼は豊かな自然や街並みが、夜は宝石をちりばめたような夜景が広がる。そんな藻岩山へと続くロープウェイの安全を守るのが西村さんの仕事だ。毎日、ゴンドラ上部にある整備台に乗り、最大で地上約70mの高さで異音がないか、ロープに緩みはないかなど、目と耳で確認していくのが整備の基本。このほか、ロープウェイの運転、車輪の交換や機械室の点検など、その業務は多岐にわたる。

整備に携わるようになったのは23歳のとき。初めの頃は動く仕組みさえ分からなかったと言う。足がすくみ、ロープウェイから鉄塔に移ることでできず、先輩に「自分たちがやらないで誰がやるんだ」と叱られたり、風雪の中、故障した車輪を夜通して修理したりと、これまで苦労は山ほどあった。しかし、そんな苦労を吹き飛ばしてくれたのは、藻岩山からの景色を楽しんでいる人々の笑顔。「やってきて良かったと心から思います

ね」と誇らしそうに語る。

そんな西村さんも今や17年目のベテランだ。「ロープウェイは音などで異常を教えてくれる。それにいかに早く気が付くかが大切なんです」。藻岩山を訪れた人はもちろん、現場の作業員を守るためにも、安全第一を徹底している。

「空気が澄んでいる冬は、特にきれいな景色が見えますよ」と人懐こい笑顔で話す西村さん。多くの人たちに札幌の風景を届けるため、今日も整備に余念がない。

匠の裏話

ロープウェイの整備台に乗った状態で行う安全確認

乗客を運ぶときと同じ、時速18kmの速さで、整備台に乗ったまま行われる点検作業。雪の日も欠かさず行っています。



矢印部分が整備台。ここに乗った状態で往復20分間作業する↑

もいわ山 ロープウェイ

住所 中央区伏見5 営業時間 11時～22時(上り最終は21時30分)

市民料金 ロープウェイ+もーりすカー(往復)=1,000円。小学生以下500円

住所を確認できる書類が必要

交通機関 市電「ロープウェイ入口」下車、南19西15から山麓駅へ無料シャトルバスを運行中

詳細 ☎561-8177 ホームページでもご覧いただけます

※5ページ、26ページもご覧ください

札幌市 もいわ山

検索

